



イエスのカリタス友の会だより

35号 2019 12. 24 発行

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」ルカ2章14節

イエスのカリタス友の会の会員の皆様 また、友の会を応援してくださる皆様に、主の降誕と新年のお喜びを申し上げます。そして、様々な形で、イエスのカリタス友の会を通して困難のうちにある方々を支援してくださっていることに心からの感謝を申し上げます。

さて、皆様は、11月23日～26日の教皇フランシスコの訪日を、どのように受け止められましたか？教皇は、この4日間、「すべてのいのちを守るため」というテーマを貫かれて、長崎・広島・東京を巡り、重要なメッセージを残されましたが、教皇の訪日の本当の意義はこれからの私たちの生き方にかかっています。

それで、東京ドームのミサでの言葉を中心に、教皇の言葉を振り返ってみたいと思います。

「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それはきわめてよかった」(創世記 1:31)。与えられた美と善は、それを分かち合い、他者に差し出すためのものです。わたしたちはこの世界の主人でも所有者でもない…。わたしたちが、自分自身のいのちを真に気遣い、自然とのかわりをも真に気遣うことは、友愛、正義、他者への誠実と不可分の関係にあるのです。この現実を前に、わたしたちは、すべてのいのちを守り、知恵と勇気をもって、無償性と思いやり、寛大さとすなおに耳を傾ける姿勢に特徴づけられてあかしするよう招かれています。それは、実際に目前にあるいのちを、抱擁し、受け入れる態度です。そこにあるもろさ、さもしさをそっくりそのまま、そして少なからず見られる、矛盾やくだらなさをもすべてそのまま引き受けるのです。わたしたちは、この教えを押し進める共同体となるよう招かれています。障害をもつ人や弱い人は、愛するに値しないのですか。よそから来た人、間違いを犯した人、病気の人、牢にいる人は、愛するに値しないのですか。」

これは教皇が就任以来6年間、それ以前から変わることなく訴え続けてきた言葉です。さらに東日本大震災の被災者との出会いの中では次のような発言もしています。

「わたしたちはこの地球の一部であり、環境の一部です。究極的には、すべてが互いに絡み合っているからです。思うに最初の一步は、天然資源の使用に関して、そしてとくに将来のエネルギー源に関して、勇気ある重大な決断をすることです。わたしたちの共通の家の未来について考えるなら、ただただ利己的な決断は下せないこと、わたしたちには未来の世代に対して大きな責任があることに気づかなければなりません。その意味でわたしたちは、控え

めで慎ましい生き方を選択することが求められています。」

また、日本を離れる前、上智大学で若者たちに向かっては、「言葉と行動が偽りや欺瞞であることが少なくないこの時代に」誠実であるように、弱者、貧しい人、隅に追いやられた人を擁護するように「貧しい人たちのことを忘れてはいけません」(ガラテヤ2-10)と励ましました。

教皇は、長崎・広島で軍縮や核兵器の使用などについても明確に発言されましたが、私たちの日常生活での思いやり、気遣い、親切などささやかな実践が世界の真の平和につながって行くと思います。

最後に分かち合わせていただきたいこと、それは、この訪日に当たり頂いたお恵みについてです。イエスのカリタス修道女会の私たちは、教皇の来日のために、いくつかの役割を頂き、教皇を迎える心の準備をすることができました。私自身は東京ドームの聖歌隊の担当として、その練習を精一杯して当日に臨みましたが、最初、公式聖歌「すべてのいのちを守るため」の録音をする時、作曲者より大変興味深い指導を頂きました。歌い出しの「おお主よ」の低音から高音という音の使い方は動物の鳴き声を表わしている。つまりこの“おお”は、“地球上のすべてのいのちの叫び”と伺ったとき、一人ひとりのいのちのためと同時に悲鳴をあげる地球のためにも、神様の恵みを願わなければと強く自覚することができました。また、教皇ミサ当日は、聖歌隊とオーケストラ約500名の協力的ないちずな姿勢に心を打たれました。生徒、信徒、修道女、信者ではない人も一つの心で取り組む時、それは本当に大きな力となること実感する貴重な経験をさせていただきました。

イエスのカリタス友の会の皆様、教皇様が何度も何度も勧めてくださった弱者、隅に追いやられた方々、貧しさの中で困難にある方々のために私たちも力を合わせて、これからも励んでまいりましょう。どうぞよろしくお願い致します。神の祝福が皆様の上に豊かにありますようにお祈りしています。

おお主よ、
あなたの光と力を注いでください。
すべてのいのちを守り、
より良い未来を開くため私たちをお使いください。



コーディネーター シスター峯 妙子





フィリピンからの支援要請



小学校・中学校用図書室の机と椅子購入のための支援

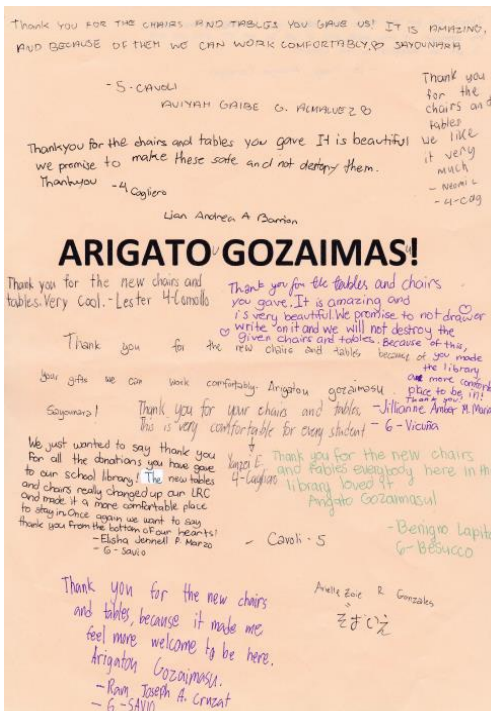
1994年に設立された本校も様々な方々のお祈りとご支援のお陰で25周年を迎えることができました。しかし、近年の学制の変更、学校前の長引く高速道路と一般道路建設による交通渋滞と粉塵・振動などの公害で転校する生徒が激増し、昨年は200人減、今年は更に100人減と経済的に苦しい状況が続いております。それでも生徒達の環境を整えることが学校としての第一の義務として様々な箇所の修理を行なっています。しかし、小学生・中学生用の

図書室は20年前に取り替えた古い元コンピューターの机、椅子は簡易のプラスチック製の椅子をいまだに使用しており、特に机の脚は所々ボロボロになっています。数年前には高校生用の図書室の机と椅子を友の会から支援していただきました。今度は成長期の小学生・中学生のために、きちんとした図書室用の机と椅子を支援していただけたらと願っています。

申請金額 490,000 ペソ (約 1,038,800 円)

この申請について、資金全額を支援することが可能であったため、申請は受け入れられ、フィリピンへ全額お渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。

感謝のお便り



※素敵な机と椅子を私たちの学校に寄付してくださりありがとうございました。大切に使用させていただきます。
 ※皆さんからいただいた立派な机と椅子のおかげで図書室がさらに快適な空間になりました。破損したり、落書きしたりしないよう大切に扱います。





クリスマスメッセ



フィリピンより

**MERRY CHRISTMAS AND A HAPPY NEW YEAR TO ALL!
MALIGAYANG PASKO AT MANIGONG BAGONG TAON!**

フィリピンのカリタスドン・ボスコスクールよりご挨拶申し上げます！ここ数年で学校を取り巻く環境は大きく変化しました。高速道路、一般道路の建設と宅地開発などによって、木々の緑、閑静なたたずまいがなくなり、好ましいとは言いがたいものになってしまいました。大規模な開発を前に住民も学校も無力で、不便を甘んじるしかありませ

ん。それでもフィリピンの若者たちの教育、人格形成のため、教職員、修道者一同様々な努力を続けております。2019年も皆様の温かいご支援をいただきながら、学校を運営し、地域への福音宣教、奉仕へ出かけていくことができました。今年度は創立25周年を祝う行事がたくさん計画され、そのため1年をかけて準備してきました。



オペレッタ “エリコの盲人”

その中の1つに、チマッティ神父様作曲のオペレッタ“エリコの盲人”があります。去る11月23日に初公演、2月1, 2日に創立記念公演を予定しております。皆さまにもご鑑賞いただきたいですが、せめて感謝をこめて公演に臨み、皆さま方のためにお祈りすることを約束いたします。どうぞ人となられた神の子イエスをいつも私たちの間に迎え、毎日を

クリスマスとして喜びのうちに過ごすことが出来ますように。また新しい2020年も神様の祝福が皆さまと共にありますように。感謝の祈りとクリスマスの喜びのうちに。

サンタローザ修道院シスターズ
カリタスドン・ボスコスクール教職員
生徒一同



南スーダンより

主のご降誕と新年のあいさつを申し上げます。いつも変わらぬご支援をしてくださっていることに心より感謝いたします。私たちが宣教している南スーダンのジュバ大司教区は今年 100 周年を迎え、1 年を通じて分野ごとのプログラムが開催されています。しかも今年は、福音宣教に関する使徒的書簡『マキシム・イルド』の発布 100 年めにあたり、教皇様は、宣教師たちに特に意識をもって過ごすよう促しています。それで今回は南スーダンの初期宣教について書きたいと思います。イタリア人宣教師がナイル川を渡り、当時一つの国であったスーダンにたどり着いた時、その部族長に話をし、宣教を始めます。部族長はこの宣教師を受け入れ、キリスト教を広めることを許可し、司牧の場所を与えます。部族長はその村の一番高い小さな山に登り、「ここから見える、陽のあたる場所すべてをあなたに与えましょう。好きな場所に教会を建てなさい」と言い、宣教師は、この山に近い場所に最初の教会を建てました。その教会は、これまで幾度かイスラムからの迫害に遭いますがそれに耐え、今に至っています。レンガ造りの立派な教会です。その後この宣教師は、イタリアに休暇に帰った折、ここでの宣教の話教会でしますが、その話にひどく感激した教会の一人の青年、ダニエル・コンボニは、有志を募り

コンボニ修道会を作り、現地の方による現地の教会づくりを始めます。今では、彼や彼の会員たちが創立したコンボニファミリーの修道会がいくつもあり、活躍しています。コンボニは聖人となっていますが、彼はちょうどドン・ボスコと同じ時代を生きました。コンボニは、修道会を創立しイタリアに戻った際、他の修道会にもスーダンへの宣教を持ちかけます。彼は、ドン・ボスコにも、声をかけましたが、ドン・ボスコは当時、南米に宣教師を送ったばかりで、新たに宣教師を送れず、断ったというエピソードがあります。今、サレジオ会はスーダン宣教 40 年余りですから、ドン・ボスコの帰天後に、スーダン入りしたとみられます。現在、南スーダンはスーダン国から別れ、2011 年 7 月に独立しましたが、2019 年度内に、2 度も内戦がおこっています。大統領と副大統領、それぞれの部族がどちらかについており、統一は一筋縄ではいかない難しい状態です。この 2 回の内戦により、国内外に数多くの避難民を生み出しています。私たちは、彼らを励まし続け、皆様からの支援金をどう生かしていくか祈りながら、活用していけるよう頑張っていきたいと思います。愛と平和の君である幼子イエス様に導かれながら。

シスター マリア・ボスコ 下崎優子



ブラジルより



すべての民に及ぶ大きな喜びの訪れをあなたがたに告げる。

今日、ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。(ルカ 2・10-11)

喜びの待降節！！ブラジルの教会も幼子イエス様のご誕生を準備する喜びの待降節を迎えました。キリスト者が、真のキリスト者に変えられていく喜びの典礼季節です。毎年ブラジル司教団はクリスマスの準備期間である待降節中、家庭に於ける九日間の祈りの集会を準備するよう小教区に促し、キリスト者が積極的に福音宣教できるよう同伴します。今年のテーマは、「喜びのクリスマス！！」。私たちの九日間の祈りは深い喜びのうちに行われます。ブラジルは自然災害がほとんどありませんが、農産物が豊富なサンパウロ州であっても飢えや貧困がひどく、国の保護を受けることが出来ない多くの病人や路上に寝起きする人々の数は驚く程です。私たちは心にイエスの慈しみを汲み入れるために、食物・衣服・電車賃を乞われる等、日に数回の呼び鈴に、愛のもてなしをするよう共同体で実践することにしました。批判なしに、求める人には与える。食物、衣服、寝具、訪問等々。この呼び鈴は

若いイエス様、この時間の呼び鈴は年取られたイエス様、と聞き分けるシスター達は、いそいそと昼食を準備します。遠足にでも行くように、サンドイッチに果物、飲み物、サラダとフォーク、紙ナフキンも揃えて。寒い時には温め、暑い時には氷を添える等。その所作は喜びの奉仕です。イエスの心に学ぶ人の顔が喜びに輝くのをお互い確認できます。病人を訪れ、高齢者の方々の孤独に寄り添い、イエスの慈しみを学んでいます。クリスマスの準備期間中、祈り、真剣な兄弟愛活動に励み、率先してクリスマス・プレゼントを準備し、路上生活者・老人ホーム・子どもたちの家を訪問し、救い主のご誕生の喜びを運びます。所属教会の炊き出しグループに参加し、毎週、路上や橋の下に住んでおられる方々にスープをお世話する等。信徒の方々と、食品を詰め合わせた贈り物を車に満載し、貧しい裏街の隅々を巡り、クリスマスの喜びを届ける等、待降節はカトリック教会が愛に輝く時です。

貧しい人とともに





サント・アントニオの家



ビリチバ・ミリンのサント・アントニオの家でシスターたちは、キリストの慈しみのうちに、ドン・ボスコの心で、辺境にある貧しい170名ほどの青少年と生活しています。毎日の食事を準備し必要な教育を施すということは、筆舌に尽くし難いパワーを要し、行き詰るような出来事にも遭いますが、子どもたちを見ると、どのような時にでも活力が出ます。子どもたちの成長のために、食事を工夫しプログラムを工夫しています。基礎教育、課外教室、器楽、スポーツ、聖書教室、心理療法、手仕事、園芸、ダンス教室、パソコン教室等。また専門職員達の惜しめない協力があり、善意ある農家の方々、種々の食料店の寛大な援助に支えられながら子どもたちに毎日の糧を十分に準備できることを、神様の大きな祝福であると感謝する日々を過ごしています。年間を通してシスターたちの奮発も大きく、古着市、野菜市、慈善歌謡祭、フェイジョアダ(豆と肉を煮込んだ料理)祭、ビンゴ大会等、資金捻出のため、エネルギッシュに活動しています。国の援助を待っている、子どもたちの教育は遅れてしまいます。学年末の3学期は勉強だけでなく、カテケイジス大会や室内運動会で、皆楽しく競い合います。園長シスターを中心に職

員も心を一つにして子どもたちの幸せを願っています。子どもたちは明るく毎日登校していて、貧しさの中にあってもきれいに身を包んでいます。ルールでは、12月のクリスマス近くに、子どもたちのために協力を下さった近隣の恩人や、すべての恩人を招き、子どもたちと昼食を共にして主のご誕生を祝い、帰りに子どもたちの手作りの小品を差し上げています。歳末の多忙の中にあっても、恩人方は子どもたちと喜びあえる日を楽しみに待って下さっている様子です。

ブラジルの北東に、ジュアゼイロという田舎町がありますが、この街の創設者的な存在である故シセロ神父様を慕って巡礼者が絶えません。ブラジルでも大きな巡礼所に数えられ、祈りの町に年々変貌しています。故シセロ神父様の列聖式も、近いとの報道があり、巡礼団はますます増加しています。シスターたちは巡礼者の案内や、応対に喜び勇んでいます。夜明けの4時には巡礼団到着を知らせる喜びの花火が町中に響き渡り、応対が始まります。奇跡の恵みを願う嘆願のミサ、いただいたお恵みへの感謝のミサ等、シスターたちは、使徒職のうちに幸せを感じながら、感謝の日々を巡礼者とともに過ごしています。



女性の集い



リーダー養成





カリタス学園 サン・マテウス校

カリタス学園は、教育施設として教育の充実に最善を尽くしながら、かつ社会問題に対する生徒の関心を呼び覚まし、良い市民になれるよう教育することを大切にしています。自分の持ち物はそんなに多くなくても、その中からもっと貧しい生活をしている人々と分かち合うことを学びます。学校を支援して下さる方々のおかげで私たちの教育活動も可能となり、神様がお望みになる「すべての人々が豊かに生きること」というみ言葉の実現へと進むことができます。幼子イエス様のご生

誕を目にした羊飼いたちが、この不思議な出来事を町の人々に伝えたように私たちも救い主の誕生を多くの人々に告げ知らせることができますよう羊飼いたちに真似ていきたいと祈念しています。最後に友の会の皆様に幼子イエス様の祝福を祈り、感謝を申し上げます。クリスマスの喜びが全ての人々に届きますように。

ブラジル準管区長

シスターマリア浦川道子



ペルーより



山岳地帯への宣教



プカルパ教会サロン落成式



アントニオ・カヴォリ学園

イエスのカリタス友の会の皆様、主の降誕のお喜びを申し上げます。皆様いかがお過ごしでしょうか。ペルーは例年より涼しい夏を迎えています。

ペルーの私たちの近況報告をいたします。マリア・タキ保育園では卒園式を前に控え、学習発表会を行いました。子どもたちも父兄も大満足でした。老人ホーム「憩いの園エンmanuel」では、今年、日本の皇室より眞子様の訪問をいただき、入所者、職員たちの間には、いまだに喜びの余韻が漂っています。

アントニオ・カヴォリ学園では皆様の寛大なご援助でヴィクトリア区の安全委員会より指摘されていた部分の整備を終えて国の規定に沿った施設の内外の整備が整い、園児、生徒たちは嬉々として学園生活を充実させています。生徒たちは安全な場所で安心して勉強できとても喜んでいきます。

プカルパでは、韓国の恩人方の寄付によって8月に教会サロンが完成し、子どもたちの勉強や宗教教育、教会の信者さんたちの活動が活発になってきました。子どもたち、地域の貧しい家族に寄り添いながら過ごしています。

管区本部に住むシスターたちは日本人ペルー入植120周年を記念して行われている多くの行事に心を合わせてできるだけ参加し、ペルーの教会、世界の教会の動きにアンテナをめぐらして勉強会・報告会などに参加しています。

2019年もたくさんの問題が押し寄せてはきましたが、神さまのまなざしを身近に感じる、喜びに満ちた一年でした。皆様を通していただいた恵みに心より感謝いたします。来る年もどうぞよろしく願いいたします。

2019年12月リマの聖女ローザ準管区

ペルー国共同体一同



マリア・タキ保育園学習発表会



日本人ペルー入植100周年記念



内親王眞子様訪問





6月のみ心の祭日
と10月奇跡の主の
祝日に友の会のた
めに感謝のミサを
捧げました。

生徒のためのミサ

ホリビアより



イエスのカリタス友の会の皆様、豊かな地形、気候、自然、人種が織り込まれた多民族と多文化の国ボリビアより、心からの喜びと感謝の気持ちを添えて主のご降誕と新年のお祝いを申し上げます。ボリビア宣教55年を迎えた今年2019年に、大きな2つの出来事が私たちの心と歴史に刻まれました。一つは、愛する姉妹、Sr. パオラ檜山の別れを体験したことです。Sr. パオラ檜山は、あの小さな体のなかに堅固な信仰と絶え間ない宣教熱、そして真の優しさを持ち、60年間の奉獻生活を誠実に貫いたカリタスの娘であり、ボリビア宣教の歴史に確かな足跡を残し多くの人に慕われた宣教女でした。長きにわたりオキナワ日本人移住地で多くの日本人の信仰生活を導きオガールファティマ乳幼児施設の見

捨てられた子どもたちを母の心で愛しみ育みながらボリビア宣教に大きく貢献されました。2019年7月19日早朝、最期に思いやりにあふれた感謝の言葉を残し、天の御父のもとに旅立ちました。Sr. パオラ檜山の残した足跡を引き継いでシスターたち皆で協力しながらオキナワ日本人移住地の人々の信仰生活に寄り添っています。

オガールファティマ乳幼児院では、慈しみ深い神様の保護と善意ある方々の協力を得て温かい家庭的な環境づくりに努めながら、見捨てられた子どもたち、虐待・貧しい家庭環境から保護された0歳から6歳までの約50名の可愛いやんちゃな子どもたちの健やかな成長を見守りお世話しています。





典礼や各祝祭日の行事では協働者と協力して工夫を凝らして、喜びや感動を分かち合いました。保護者ファティマの聖母のお祝いには13名の子どもたちが洗礼の秘跡を受けました。7月17日に、内親王眞子様をオガールファティマにお迎えしボリビアの施設の子どもたちの現状をお伝えすることが出来ました。

カリタス学園では宗教離れ価値観の喪失、消費主義、個人主義、複雑な家庭問題、いじめ問題に対応しながら、「よきキリスト者、誠実な社会人」を目指してドン・ボスコの教育法を実践し、2019年は、128名の若者たちがカリタス学園を巣立っていきました。

そして、もう一つの体験は共産主義に傾倒していたボリビア国のデモクラシー回復のため21日間（10月23日～11月12日まで）の全国市民ストでの信仰体験です。何の後ろ盾も力もない市民たちが信仰の灯をもって兄弟愛の

輪を広げ民主主義の回復を願って立ち上がりました。人々の祈りと賛美の歌声が道端で、街角で、広場で、家庭で、教会で木霊しました。私たちが共に平和的早期解決のため神に切なる祈りを捧げました。共産主義を支持する党派の一部の人々の扇動によって、激しい紛争が起こり不安の日々を送りましたが、暫定政府の平和的対話にカトリック教会も協力し、少しずつ希望の光が見えてきました。多くの方々のお祈りに励まされ感謝しています。2020年早々大統領選挙が行われるまで、まだ政局は安定しませんが、新しい年に、ボリビア国の全ての人、特に子どもたちが安心して幸せに暮らせる平和で良い国を築いていくことが出来ますようにと愛に満ちたベツレヘムの聖家族に祈りを捧げています。最後になりましたが、イエスのカリタス友の会の皆様のご支援に心から感謝申し上げますとともに、新しい年も皆様とご家族の上に神様の祝福が豊かに注がれますようにお祈り申し上げます。

2019年12月リマの聖女ローザ準管区
ボリビア国共同体一同



井萩聖母幼稚園サマーフェスタ (6/30)

町田サレジオ幼稚園バザー (10/19)

カトリック下井草教会フェスタ (10/27)

カトリック関町教会バザー (11/10)

目黒サレジオ幼稚園バザー (9/8)

カトリック調布教会バザー (10/27)

カリタスの園ふれあいバザー (11/3)



イエスのカリタス友の会バザーへの様々な形でのご協力に心より感謝いたします。10月19日(土)の町田サレジオ幼稚園では、朝方の雨もいつしか上がり、日が差し込む2階の教室で出店させていただいたこともありましたが、その次の週の下井草・調布教会や他では天候に恵まれました。多くの皆様からの献品により準備

した品の中から、掘り出し物を探し当てて購入してくださる笑顔に、提供してくださった方も喜ばれることと思いますし、何より、私たちの支援先の皆様の笑顔を思い浮かべることができました。当日のお手伝いやバザーのために協力してくださった皆様に、心からお礼申し上げます。

使用済み切手整理



使用済み切手は以下のように買取の業者に送ることができました。

7月	国内切手	22.435 kg	と外国コイン、紙幣
10月	国内切手	46.5 kg	



イエスのカリタス友の会のために、寄付、CDによる献金、
バザーのための物品寄付、そして使用済み切手、
書き損じはがきなどをお寄せくださった皆様に
心より感謝いたします。

ブラジルを訪問して



ブラジルのサンパウロで修道会の国際会議が8月にありました。その際イエスのカリタス友の会と関りが深い2か所を訪問いたしました。カリタス学園サンマテウス校は貧しい地域にあり、約500人の生徒が在籍

しています。イエスのカリタス友の会がこの学校の子どもたちの学費支援を数年しています。校長のSr.ベルナデチ中川のお話では、学校が奨学金として100%支援した貧しい家庭のこどもは、この学校で学ぶことにより、その後、高校・大学と進学でき、弁護士や看護師になり、大変感謝しているとのことでした。

ビリチバ・ミリンにある養護施設ラールアントニオには13名が生活しています。他に午前と午後75名ずつ(14歳まで)がオラトリオ

に来て、運動、遊び、手仕事など活動をするそうです。これは役所と連携して、貧しい地域の子どもたちを悪から守るために行われている活動です。3名のシスター方がスタッフと共に活動しています。ブラジルの面積は日本の約23倍で、私たちが滞在したサンパウロだけでも日本の本州と四国を合わせた面積だそうです。大きな国ですが、貧しい地域とお金持ちの地域は見ただけ分るような格差を感じました。カリタス学園がある地域は「学校の外をみれば、貧しい地域というのがわかりますよ」とシスターが話してくれました。私たちの修道会の事業がこのような地域にあり、そこでシスターたちが60年以上も、貧しい方とかかわってきたことを実際目にする事ができました。

シスター 峯 妙子



国際会議参加者と子どもたち



ラールアントニオの子どもたち

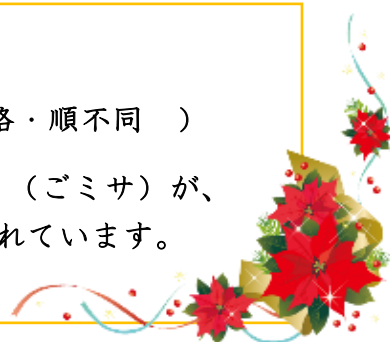
お知らせ



入会者

矢崎 由美 鈴木 かお 加納 和寛 (敬称略・順不同)

毎月10日には、イエスのカリタス友の会の会員のためのお祈り(ごミサ)が、イエスのカリタス修道女会管区本部修道院聖堂において捧げられています。どうぞ心を合わせてお祈りください。



ありがとうございました

これまでの、シスターのためのお祈りとボリビアのためのご支援に心より感謝いたします。シスターは5月、日本を旅立つ時、心からの笑顔でボリビアへ出発しましたが、その笑顔のまま、7月には天の国へ旅立ちました。

シスターが愛し、心を砕いて関わった方々、子どもたちをこれからもよろしくお願い致します。



シスターパオラ 樫山 ミユキ

1958年 初誓願宣立

1970年 7月29日 ボリビア宣教派遣

2019年 7月19日 ボリビア サンタ・クルスにて帰天

イエスのカリタス友の会入会案内

イエスのカリタス友の会は、イエスのカリタス修道女会が行う宣教活動を、財政的に支援する事を目的とするボランティアグループです。

会員の活動

任意の時期に、任意の金額を友の会に寄付します。(入会費・年会費はありません)
可能であれば、バザー、使用済み切手の収集・整理、その他の活動に参加、協力します。

入会について

入会ご希望の方は、下記の事項について事務局にお知らせください。

住所・氏名(ふりがな)・電話番号・FAX・メールのいずれかで結構です。

入会希望を受けて、事務局にて名簿の登録そ

の他事務手続きを済ませた後に、イエスのカリタス友の会の規約をお送りいたします。

個人情報について

入会時に受け付けた個人情報は、友の会事務局にて慎重に管理されます。同会会員に対しても公開は控えさせていただいておりますので、ご了承ください。尚、ご寄付・バザーの物品提供・使用済み切手の収集等にご協力いただいた際には、次回発行される「イエスのカリタス友の会だより」にお名前のみ掲載させていただいております。匿名希望の方は、その旨をお知らせください。

友の会会員のために

イエスのカリタス修道女会日本管区本部において、毎月一度友の会会員のために、感謝の

ミサが捧げられます。ご支援くださる方への感謝と報告を兼ねて、年2回「イエスのカリタス友の会だより」をお送りしています。イエスのカリタス友の会の趣旨をご理解くださり、賛同してくださる方は下記までご連絡ください。

〒167-0021 東京都杉並区井草 4-20-5

イエスのカリタス友の会事務局

TEL 03-3396-2171 FAX 03-3396-2150

Email tomonokai@m-caritas

事務局からの声

枯葉が舗道を舞っている。移ろう季節が感傷を誘う。今年の秋は気温が高く、ようやく木々の葉が色づいてきた今日この頃。東京ドームでの教皇様のお姿を拝見した時、涙が知らぬ間に流れた。優しい笑顔から伝わってくる何かに心を揺さぶられた思いを忘れない。こうして、また季節が進んでいく。平和な日々を願って。(I.T)

聖書の勉強を始めたばかりの私は、氷雨混じりの羽田空港に降り立たれた教皇さまが大地に接吻されるお姿や、後樂園球場の熱気に満ちた様子をテレビで見て私自身も一瞬、その場に置かれているかのような思いを抱きました。それから38年。待ちに待った11月25日、パパさまをお迎えする喜びの会場に立つことができミサに与りました。「すべてのいのちを守るため」疲れも見えず、思わず駆け寄りたくなる笑顔で私たちを励まし力付けてくださったパパさま。戴いたメッセージを毎日の生活のなかで静かに伝えていこうと思います。今年も台風や豪雨の自然被害が各地に起こり不自由な生活をされている方々、東日本大震災で被災された方々を忘れず、新しい年が穏やかな年でありますよう共に祈ります。(K.K)

前回の友の会だより34号の「事務局からの声」で、宣教地ボリビアから一時帰国され、白内障手術を受け、良く見えるようになったと喜びの報告をされ、5月に又、元気に一人でボリビアに帰って行かれた82歳のシスターのことをお話しさせて頂きました。ところが、数ヶ月後、ボリビアの地で、この地上での生涯を終え、神様の御許に行かれたそうです。

あんなにお元気で、素敵なおシスターでしたのに。これからは、天国からボリビアの為に祈り取り次いで下さるでしょう。今年も皆様から沢山の御支援頂戴致しました。有り難うございました。(M.Y)

待ちに待ったフランシスコ教皇様が来日されました。長崎、広島、そして東京での教皇様のメッセージは私たちの心に強く残るものでした。世界で唯一の被爆国である日本、ともすれば忘れがちな私たちに被爆の記憶を継承していくことの大切さを述べられ、また教皇様は「私たちの世界は手に負えない分裂の中にある」と述べられたことは私たち一人ひとりが重く受け止めるべきと強く思いました。(Y.H)

教会で結婚式のお手伝いをさせていただくようになって久しくなります。10月12日にも久しぶりの結婚式がありました。台風19号の接近で大幅に開始時間を繰り上げての結婚式となりました。ご友人も列席がかなわずお二人のご両親のみの式となりました。式の中で「いのち」が歌われまさに“とうさんがいてかあさんがいて”の歌詞の通りで記憶に残る結婚式となりました。

その台風は各地に被害をもたらして今でも不自由な生活を強いられておられる方が大勢いらっしゃいます。早い復興を願うとともに良い降誕祭が迎えられることおいのりいたします。(Y.F)

フランシスコ教皇様来日で日本中に優しさの笑顔をお伝え下さいました。数年前アルゼンチンからなんとも人懐っこい笑顔の教皇様が誕生した際 半生を描いた映画を拝見してアルゼンチンの苛酷な現状を知ることが有りました。南米は殆どの国が植民地の歴史を経験しその貧富の差は私達の想像をはるかに上回ります。そんな現実と戦っていらした上での教皇様の強さと優しさは会った方全てに癒しを与えて下さいます。私達のカリタス会のシスター方もそんな南米の貧困から来る苦しみの中で苦しんでいる子ども達の為に働いていらっしゃいます。全ての子ども達が楽しいクリスマスを迎えられますように。(Y.K)

バザーのお知らせや報告、スモールクワイアによるコンサートのお知らせ、活動報告などがイエスのカリタス修道女会のホームページでもご覧になれます。海外や日本で働くシスターたちの宣教活動、CDのお申し込み方法なども載せてありますので、ぜひご利用ください。 <http://www.m-caritas.jp>

寄付金受入れ口座

加入者名 イエスのカリタス友の会

郵便振替口座 00160-2-564970

発行 イエスのカリタス友の会

〒167-0021 東京都杉並区井草 4-20-5

TEL : 03-3396-2171 FAX : 03-3396-2150

e-mail : tomonokai@m-caritas.jp

代表 山縣久美子 事務局長 片山久美子